

NAVI 見どころ紹介 2024年4月

●キタコブシ(コブシ)

耐寒性に長けたコブシの変種で、北海道や東北、北陸などの北国に見られます。葉と花はコブシよりも大。モクレンとの大きな違いは花の付け根に葉がついているのがコブシ、ついていないのがモクレン。花が開いて横から下向きに咲く(コブシ)、花が上向きにややつぼんで咲く(モクレン。漢方薬(蓄膿症、頭痛)でもある。

●オオイヌノフグリ 3月~5月頃。元々は、西アジア・中近東原産の帰化植物、今では、日本全国で春を代表する花になっています。命名は牧野富太郎。



●ヒメオドリコソウ(姫踊子草)

ユーロッパ原産の帰化植物です。オオイヌノフグリ・ムラサキケマンと、よく一緒に咲いています



●ヒメリュウキンカ

イギリスやヨーロッパ大陸の山地の湿った草原や湖沼畔に生える、小型のキンポウゲの仲間です。日本全国に散在している帰化植物でもあります。つやつやした花と葉が特徴。



●ショウジョウバカマ

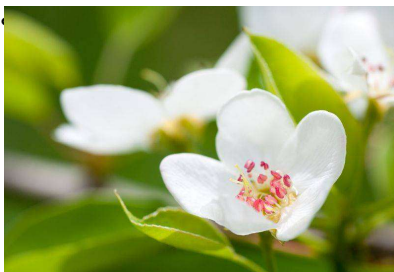
日本原産。葉は細長くて光沢があり、根元から放射状に広がります。栄養状態のよい株では、葉の先端から新芽を出します。葉の中心には翌年の新芽があります。

●ナシの開花

販売される順は、「幸水」⇒「豊水」「あきづき」⇒「新高」ですが、花が開花する順は「新高」⇒「豊水」⇒「あきづき」⇒「幸水」の順です。

花の中の赤いのが花粉のある雄花。受粉は昆虫(ハチ)による自然受粉と人工授粉があり、呉羽では主に別品種での人工授粉をされています。

開ききっていない若い花を摘んで、葯(花粉の詰まった袋)を集め、「開葯器(かいはくき)」に入れ、26度の温度12時間で葯が開き、その花粉を集めて交配用花粉ができます。採取した花粉を梵天でひとつひとつの花に受粉させます。



葯分離器
⇒開葯器



「幸水」「豊水」「あきづき」ともに、花粉採取用の品種として、「長十郎」、「松島」、「ゴールド二十世紀」、「新興」等で受粉。サイクリングロード横のナシの木は「新興」とのこと

